

EMP 報告書

2006 年度前期



2006 年 8 月 2 日医学科 5 年生 EMP (担当：産婦人科鯨島浩助教授)

宮崎大学医学部社会医学講座英語分野

玉田吉行・横山彰三・Michael GUEST・Richard WHITE・南部みゆき (非常勤)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 概要 | |
| 2 活動報告 | |
| 3 参加者アンケート結果 | |
| 4 総括と今後の課題 | |
| 別冊 <実施報告> | |
| 1 医学科 5 年生 EMP | 2 医学科 4 年生 EMP |
| 3 看護学科 3 年生 ENP | 4 附属病院看護部 ENP |

1 概要

医学部では、2005 年度に引き続き、医学部をあげての「英語が使える医療人の育成プログラム」に取り組んでいます。

EMP とは、English for Medical Purposes のそれぞれの頭文字を取って作った略語で、医療のための英語という意味です。元々、目的を明確にして学習効果を高める狙いで考案された ESP (English for Specific Purposes) 教授法由来の言葉です。EMP は、ESP を更に特化した形ということになります。

学部間提携校のタイプリンス・オブ・ソクラ大学での単位認定を伴う 6 年生用のクリニカル・クラークシップの準備のために、と目的を明確にして組まれたわけですが、その過程で、病院も含めた医学部全体の取り組みに発展させようという流れになりました。その取り組みの呼び方に、EMP を使ったどうかと考えたわけです。

医学科 5 年生は、ソクラ大学だけではなく、現在交渉中の米国カリフォルニア大学アーバイン校、英国バーミンガム大学など、海外での臨床実習に参加する時の準備のために、

医学科 4 年生は、2 年後の海外での臨床研修を想定し、1・2 年次でやったことの復習と、2 年間に自分でやれることは何かを模索出来るように、

看護学科 3 年生は、企画中の開発途上国からの学生受け入れに向けて、卒業後国際医療などをを目指す人たちのために、看護師として英語を話す患者とのコミュニケーション能力を身につけることを想定し、1・2 年次でやったことの復習と、2 年間に自分でやれることは何かを模索出来るように、

病院看護部は、日頃の業務の中で実際に英語を話す患者さんとのコミュニケーションをはかるために、という具体的な目標を設定して EMP, ENP を実施しました。

2006 年度は、医学科 4・5 年生の EMP に加えて、看護学科 3・4 年生の ENP (English for Nursing Purposes) と大学附属病院看護部の ENP も始めました。EMP と ENP を選択科目として正規のカリキュラムに取り入れています。

前期は、①医学科 5 年生の EMP、②医学科 4 年生の EMP、③看護学科 3 年生の ENP、④大学病院看護部の ENP と、⑤その他の活動を実施しました。

その報告書です。

社会医学講座英語分野の教員 4 名（玉田吉行、横山彰三、Michael GUEST、Richard WHITE）が中心に担当し、看護部 ENP では南部みゆき（非常勤）さん、医学科 5 年 EMP では解剖学講座超微形形態学分野の澤口朗助教授、生殖発達医学産婦人科学分野鮫島浩助教授に応援を依頼しました。

2 活動報告

①医学科5年生のEMP

7月31日から8月2日までの4日間の短期集中で9回、タイでの臨床実習に参加した6年生の報告会(6月14日)、大学院セミナー2回(5月15日・22日)、産婦人科のセミナー(7月14日)の合計13回を実施しました。

参加者は14名でした。前回の第1回EMP講座は学年末に急遽実施したために連絡が徹底しなかったこと、EMPが正式な選択科目になったこと、海外研修の選考の際にEMP参加を選考基準の一つに加えること、などを考慮して、新規に登録を受け付けました。

第1回EMP講座に引き続き、来年度の海外での臨床研修を想定し、海外ドラマ『ER 緊急救命室』を題材にした産婦人科学(鮫島助教授)、解剖学(澤口助教授)のセッションと、そのプレビュー・レビュー(GUESTとWHITE)を中心に行ないました。前回既に医師によるセッションとネイティブによるプレビュー・レビューを行なっていますので、同等以上の内容を維持するために、海外経験の豊かな医師と研究者(M.D.)に協力をお願いしました。



②医学科4年生のEMP

学期内の放課後に10回(学術振興会の招聘教員SKELTON教授のセッション2回を含みます)、タイでの臨床実習に参加した6年生の報告会(6月14日)、大学院セミナー2回(5月15日・22日)、産婦人科のセミナー(7月14日)の合計14回を実施しました。

参加者は12名でした。正式な選択科目で、海外研修の選考基準の一つでもありますので、4月18日(火)に説明会を開き、登録を受け付けました。(説明会の参加者は22名)

2年後の海外での臨床研修を想定し、1・2年次でやったことの復習と、2年間に自分でやれることは何かを模索出来るように、ネイティブによるセッションを中心に行ないました。新年度に急遽科目設定をしたために正規の時間割での授業は難しく、大半が放課後の実施となりました。



③看護学科3年生の ENP

時間割内に9回(学術振興会の招聘教員 SKELTON 教授のセッション1回を含みます)を実施しました。

当初の参加者は7名(大学院生1名が特別参加)で、途中で1名が辞退しました。正式な選択科目で初めてでもありますので、5月15日(火)に説明会を開き、登録を受け付けました。企画中の開発途上国からの学生受け入れに向けて、卒業後国際医療などをを目指す人たちのために、看護師として英語を話す患者とのコミュニケーション能力を身につけるための想定し、1・2年次でやったことの復習と、2年間に自分でやれることは何かを模索出来るような内容で実施しました。



④大学附属病院看護部 ENP

学期内の放課後に9回の授業を行ないました。

希望者52名のうち、第1回は6名を対象に、「英語を話す患者さんとのコミュニケーション」をはかるために、持ち寄った患者との実際の会話例の翻訳や用語などを交えながら、簡単なやりとりの練習などを実施しました。

英語教育研究をしておられる南部みゆきさんと玉田が二人で4回を担当し、そのうち3回を南部さんが中心に授業を行ないました。



⑤その他の活動の概要

1. 6月6日に、4月にタイでのクリニカル・クラークシッププログラムに参加した医学科6年生による初めての報告会を実施、教官・事務官・学生35名が参加しました。
2. 4月に、横山助教授と玉田がソククラ大を訪問して、学生の実習を録画し、担当医師や管理職者との面談を行ないました。5月には、池ノ上教授がレジデント派遣の交渉にソククラ大学を訪問し、上記の報告会で報告しました。
3. 横山助教授が招いた日本学術振興会外国人招へい研究者 SKELTON 教授による医学科4年 EMP、看護学科3年 ENP のセッションを実施しました。
4. 米国・英国への留学に向けて、医学科4年生が中心になって、TOEFL の ITP テストを受験しました。過去問を再編集した ITP テストは正式なスコアとはなりませんが、本試験との相関も証明されています。受験料が安く、10名以上であれば宮崎大学医学部でも受験出来ます。今回は7月8日(土)に12名が受験しました。現在の各自の英語の力を知る目的に適っていますので、今後も活用したいと考えています。
5. タイの学生3名の臨床実習(第一外科、産婦人科、放射線科で、7月末から4週間)の補助として、主に4・5年生 EMP のメンバーが実習に付き添い参加しました。
6. 8月4日に、EMP の学生主催のソククラ大学生の歓迎パーティーを開催、名和副学長、河南医学部長、菅沼副学部長、丸山教授、林(克)教授、第一外科の医師、事務官、学生が参加しました。
7. 「宮崎日日新聞」の取材を受け、「宮大医学部『臨床英語』を開設 九州初国際化に対応」が5月23日に掲載されました。
8. 横山助教授が大学英語教育学会九州沖縄支部 ESP 研究会(5月20日:熊本大学)で "EMP program at University of Miyazaki" を発表しました。
9. 横山助教授と玉田が、日本医学英語教育学会(金沢:7月15日)で「宮崎大学医学部の取り組み」を発表しました。現代 GP「アイ・アム・ユア・ドクター プロジェクト」が進行中の東京女子医科大学などから問い合わせがあり、情報の交換を継続中です。
10. 宮崎に滞在中の協定校カリフォルニア大学アーバイン校の Dr. Feizal Waffarn, Dr. Edward J. Quilligan を招いての産婦人科のセミナーに、医学科4・5年生 EMP のメンバーも参加しました。Dr. Hajime Taniguchi の Case Report で、約50名の参加者がありました。
11. 昨年度に引き続き、教育戦略経費(130万円)が交付されました。昨年同様に海外提携校からの講師の招聘、非常勤講師の招聘など、プログラムの充実に向けて活用したいと考えています。



3 参加者アンケート結果

医学科5年生

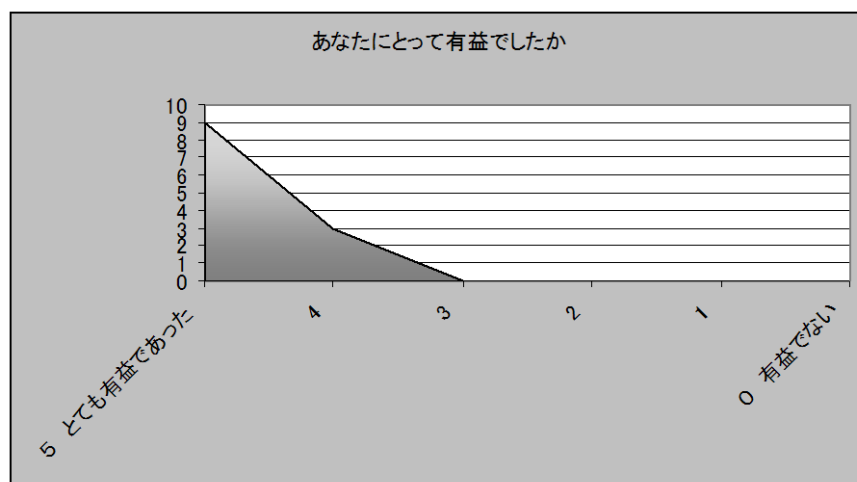
「このプログラム全体を通して5段階で評価してください。」の問いに対して「とても有益であった」9人、「有益であった」3人というアンケートの結果から、概ね学生の評価は高かったことが窺えます。新しいメンバーでやりましたが、春の第1回EMP講座で既に何人かはMDによるセッションを経験していますので、今回もそのレベルを下げないようにと考え、実際に色々と準備しましたので、高い評価を受けたのは今後の指針と励みになると思います。（「このセッションはあなたにとってどのくらい有益でしたか。5段階で評価してください。」の「玉田・横山担当のセッションについて」は、5……9人、4……3人、3……1人、「ゲスト・ホワイト担当のフォローアップセッションについて」は、5……12人、3……1人、「Dr. 澤口・Dr. 鮫島のメインセッションについて」は、5……10人、4……3人でした。）

「以下の項目についてあなた自身について該当する箇所に○印を付けてください。」の玉田・横山担当のセッションの「あなたの目標達成度」は、大変満足……3人、満足……7人、あまり満足していない……1人、満足していない……2人、ゲスト・ホワイト担当のセッションの「あなたの目標達成度」は、大変満足……5人、満足……5人、あまり満足していない……2人、わからない……1人、「Dr. 澤口・Dr. 鮫島のセッションの「あなたの目標達成度」は、大変満足……4人、満足……6人、あまり満足していない……1人、わからない……1人でした。DVD-Rなどの資料の配付が遅かったことや、講座直前まで臨床実習があって準備のための時間的な余裕がなかったことなどが主な原因だと思われます。

「プログラム全体を通して改善すべき部分（とその理由）」の問いに対して「もっとディスカッション（スモールグループ）を増やしたほうがいい」など工夫するだけで改善できそうな意見と、「今年はしょうがないことだとわかっているのですが、来年は前期のEMPは学期内（土曜日など）に開かれると良いと思いました」という、現状の担当者とカリキュラムからは不可能な意見までありましたが、改善できるところは改善していきたいと思います。

まだ試行錯誤でやっていますが、これからですので、意見を取り入れながら回を重ねて内容を充実させていこうと考えています。

このプログラム全体を通して5段階で評価してください。（1名無回答）



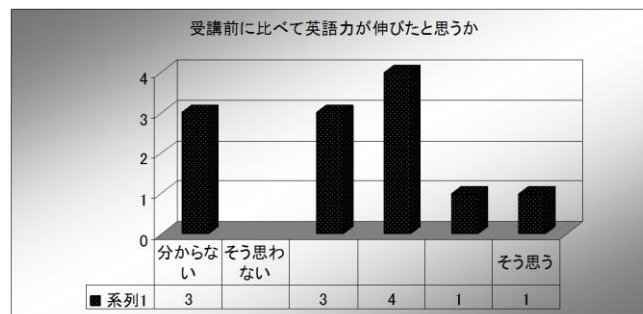
このプログラム全体を通して評価してください

評価	人数
とても有益であった	9
有益であった	3
どちらかと言えば有益であった	0
どちらかと言えば有益でなかった	0
有益でなかった	0
全く有益でなかった	0

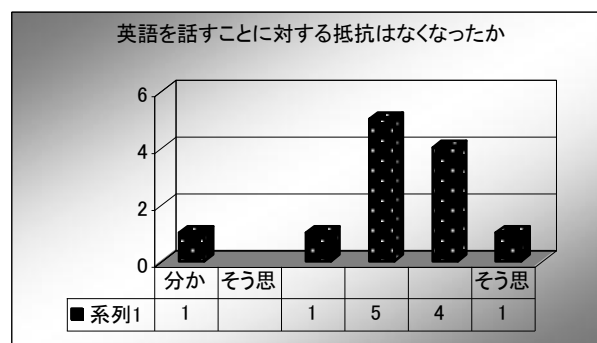
将来を見据えて、急遽 EMP, ENP を正規のカリキュラムに取り入れた時点で、既に担当者側の時間割が決まっていたので、大半を放課後に実施せざるを得ませんでした。従って、「この EMP4 で改善すべき点は（建設的な意見を）」の問いに「特にないんですが、通常授業時間内にあったらいいかな、と思いました。」などの意見はもっともだと思います。来年度は時間割内で実施する工夫をしたいと考えています。「授業のおおまなか内容をはじめに知りたい。少しイメージを持って授業にのぞめばやりやすいと思う。各講師のトピックがばらばらでつながらない。」という意見も「1・2 年次でやったことの復習と、2 年間に自分でやれることは何かを模索出来るように」という設定で実施しましたので、当然の意見だと思います。5 年生で実施しているように、後期からは M.D.によるセッションを中心に時間割を組んでいきますので、その点も解消出来ると思います。

下のグラフからも窺えますが、「受講前に比べて英語力が伸びたと思うか」を判断するには短期間でもあり、初めてでもありましたので、評価は難しかったと思います。しかし、「受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗はなくなったか」という問いにはそれなりの反応が見られます。継続的に実施できれば、「受講前に比べて英語を話す際の『自信』はついたか」に対する反応も更によくなるものと思われれます。今年は、実施できたことを最大の成果にしたいと思います。

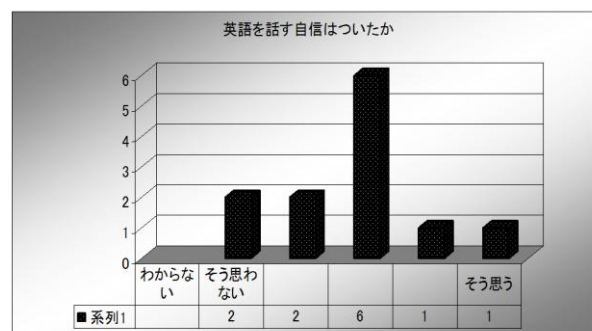
受講前に比べて英語力が伸びたと思うか



受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗はなくなったか



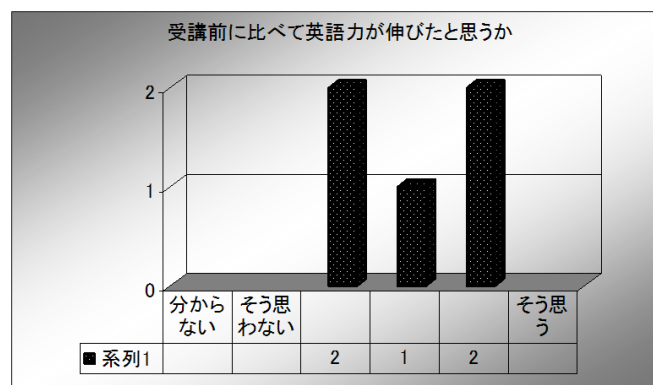
受講前に比べて英語を話す際の「自信」はついたか



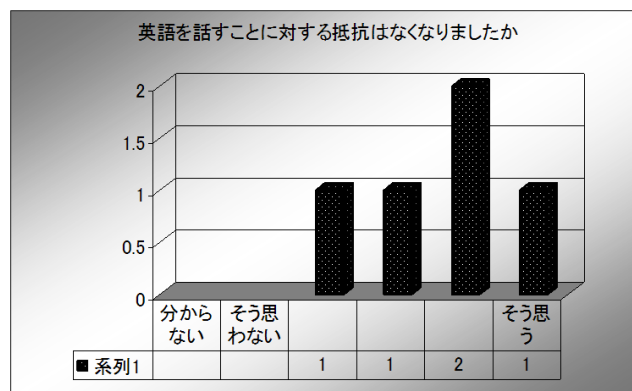
看護学科の場合は、担当者の都合がつき時間割内に実施出来ましたので、医学科のような時間割上の不満はありませんでした。しかし、医学科同様に、「受講前に比べて英語力が伸びたと思うか」を判断するには短期間でもあり、初めてでもありましたので、評価は難しかったと思います。しかし、「受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗はなくなったか」という問いにはそれなりの反応が見られます。

「現在・将来の英語必要性について」の問いには、「海外で医療活動をするなど、外に出て行くことに限らず、日本国内でも外国人の患者さんであったり、医療職者は多くいらっしゃるし、これからはもっと増えていくと思う。国内外に関係なく、英語は絶対必要になってくると思う。」などその必要性を感じている人が多かったと思います。医学科のように海外での臨床実習の目標を作る努力が必要だと思われる。幸い、来年度に JICA から派遣される開発途上国からの学生の受け入れが実現する可能性が高くなったようで、何とかそういった具体的な目標と繋げていければいいと考えています。

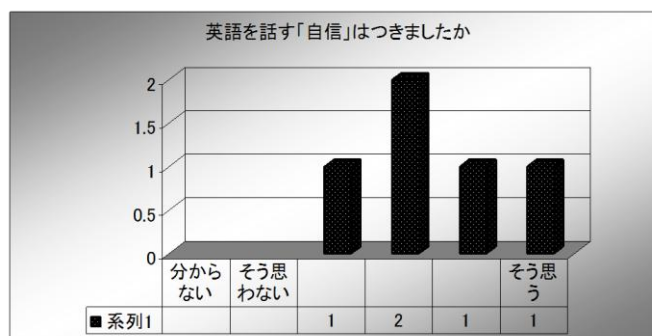
受講前に比べて英語力が伸びたと思うか



受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗はなくなりましたか



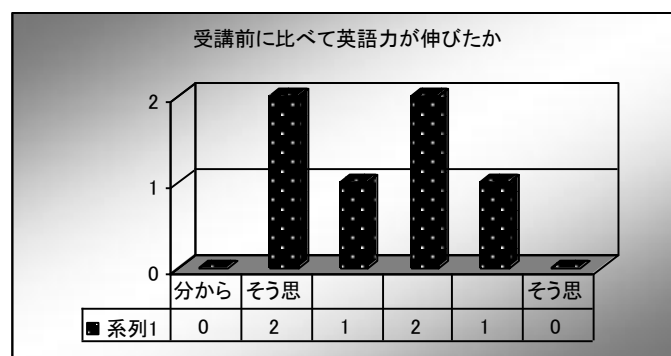
受講前に比べて英語を話す際の「自信」はつきましたか



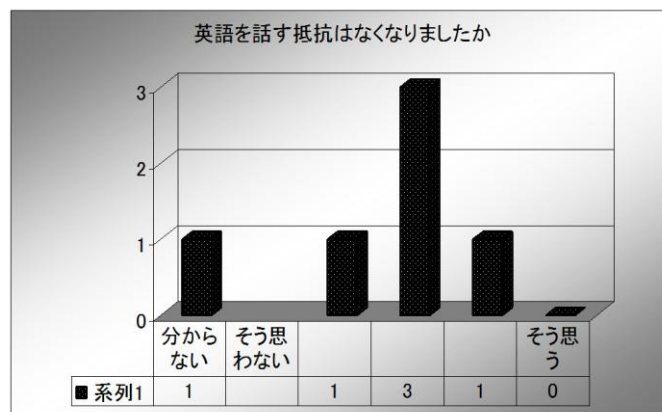
大学附属病院看護部

医学科、看護学科と同様に「英語力が伸びたか」への評価は難しかったようですが、少しは「受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗は」なくなったように思われます。「ENP を振り返って、もっともよかった点を 3 つ挙げてください」の問いに対して、「話をするのが楽しいと思えるようになったこと。」「英会話が分かるとおもしろい、もっと話せるようになりたいと思った。」「自分で自主的に勉強しないといけないという動機付けが出来た点。」「英語をもっと勉強しようと思い、少しずつではあるけれども勉強するようになったこと。」などの意見が多く、動機付けへの多少のお役には立ったように思われます。52 名の希望者のうち、今回は 6 名しか参加してもらえませんでした。後期は交付が決まっている教育戦略経費で南部さんに更に協力をお願いして、今年度中には少なくとも希望者の半数の人に参加してもらえるように時間割を組みたいと思います。また、自分で継続して学習が出来るように、全員向けの E-learning 講習会も実施する予定です。

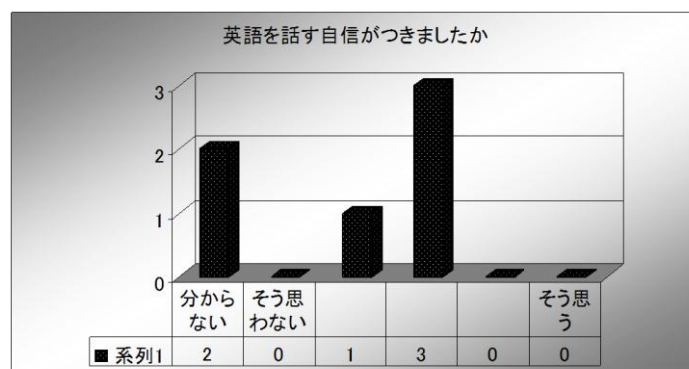
受講前に比べて英語力が伸びたと思うか



受講前に比べて英語を話すことに対して抵抗はなくなりましたか



受講前に比べて英語を話す際の「自信」はつきましたか



4 総括（事後評価と今後の展望）

急遽、正式なカリキュラムの選択科目として EMP, ENP を実施しましたが、何とか実施し、参加した人からはまずまずの評価があったと思います。参加者のほとんどが非常に真摯に取り組んでいます。語学学習において目標を持つ大切さを改めて感じています。アンケートでの意見などを参考にして内容を充実させ、何とか体制を継続して行きたいと思っています。

実際にやってみますと、医学科、看護学科、附属病院でも「実際に使える英語」への需要は高く、システムをしっかりと作って機能させ、内容を充実させていく必要性を感じます。

ただ、英語科の4人は、医学科、看護学科の英語、共通教育の主題教養科目、教育文化学部日本語支援専修（修士課程）の専門科目、各種の入学試験問題の作成など、担当している時間数も多く、その中で工夫しながらやれることを最大限にやりながら、同時に、講師などを招聘できるように、外部資金獲得にたえる実績を重ねていきたいと考えています。

将来的には、人が確保出来れば、大学院の EMP と ENP、研修医の EMP も視野に入れ、今年度から開始される国際連携センターによる事務職員の英語研修と連携しての事務職員の EMP も、医学部全体の取組みに加えることも可能です。

今年度、再度教育戦略経費が認められましたので、プログラムを更に展開出来るように有効に使いたいと考えています。一つ一つ実績を積み重ねて外部資金を得て、ネイティブや事務官が常時対応できる EMP オフィスを設置出来れば、いつでも学生や看護師の相談に応じられ、多くの需要に現実的に応えられるのではないかと考えています。

今回、快よく応援して下さいった澤口助教授、鮫島助教授はじめ、学務、総務などの事務方も含め、医学部全体の協力があつてはじめて EMP, ENP が実施出来ているのだと思います。「英語が使える医療人の育成プログラム」が色々な方面の需要に応えることが出来るように、EMP, ENP を継続してゆきたいと思っています。

